

第4次横浜市住宅政策審議会（第4回）議事要旨

日 時：平成23年10月28日（金）9：30～11：00

場 所：万国橋会議センター 401号室

■審議における主な意見

（1）答申案について

- ・ これからの住宅政策は、福祉、まちづくり、環境等、他分野との連携が必要になっている。さらに従来からある主体が連携するだけでなく、様々な連携の組み合わせの効果として「新しい公共」があり、新たな公共による様々な取組みが地域課題の解決へとつながっていく。
- ・ 新しい公共の創生として、市民による取り組みから新しい連携が生まれ、それが広がっていくことが大切である。横浜市では既に多様な主体が生まれており、各主体の連携の形や課題ごとに違った組み合わせなど、地域力による取り組み事例をパターン化して言及するべきである。
- ・ 各主体の役割が総論になっている。サービスの概念を広くとらえ、多様な主体がどのように関与するのかイメージできるようにしたい。
- ・ 福祉分野から地域包括ケアという考え方が出てきているが、地域がきちんとしていないと安心して暮すことができない。そのためには、さまざまな人が手を繋ぎ合い、地域づくりに取り組むことが求められている。
- ・ 当事者が気づかないニーズがあるので、地域ケアを担う様々な主体には、そのようなニーズを見出すことが期待され、そこに連携の必然性が生まれてくる。
- ・ 地域力が強いことが横浜の強みであり、行政だけでなく様々な主体が連携していくことが有効。さらに担い手は、NPOや自治会などの組織だけではなく、地域に住む一人ひとりの役割が大切である。
- ・ 地域力を高めるには、次世代への住教育、環境学習、防災教育などに地道に取り組むことも大切であり、教育、学習という視点を強調した方が良い。
- ・ 連携する事業者は、建築不動産と福祉だけではなく、もっと幅広く言及するべき。

（2）住生活基本計画について

- ・ 地域では、母子家庭や高齢者世帯などからの相談が増えており、基本計画のキーワードとなっている「やさしさ」、「つながり」、「あんしん」は、市民が求めている大切なキーワードだと思う。
- ・ 横浜の文化や歴史、まちの美しさ、住宅の美しさなど、自分たちのまちを自慢出来るようにしていくために、「美しさ」を計画に書き込んでほしい。
- ・ 住みたいと思える横浜にするには、多様なニーズに応えるだけでは十分ではない。建築協定が多い等「横浜らしい」魅力がどのようなことで形成されているのかきちんと書くべき。

- ・ 防災面、エネルギー問題など新しい視点も入っていて、上手くまとまっている感じがする。
- ・ 新築からリフォームという業態の変化に伴う技術力や知識が不足している事業者がおり、リフォームに関する様々なトラブルが増えている。市は業界全体に対する指導など対応策を検討する必要がある。